き　機が熟すのを待つことも必要

まちづくりには住民、行政、企業など様々な人たちが関わる。行政の担当者が熱心でも住民がソッポを向いていてはまちづくりは進まない。逆もそうだ。住民がまちづくりに熱心でも、行政の担当者が消極的であったり制度などが壁になることもある。全てがカチッとハマらないと動かない歯車時計のようなものだ。

ただ過去を振り返ると、私がまちづくりプランナーとして未熟だったのか、全てがカチッとハマることはめったになかった。それでもいびつな歯車をだましだまし組み合うようにしたり、欠けている部品を急ごしらえで調達したりとかしてなんとか動くようにすることが多かった。なのでまちづくりは関係性のデザインであるともいえる。

たまに全てがカチッとハマって気持ちよく動くこともあるが、それが長続きするかは保証の限りではない。カチッとはまるときは、住民、行政、企業に互いの関係性を意識して適切な動きをすることができるキーパーソンがいる時だ。それも多くはまちづくり課題に向けて協働で取組み成果をあげることができたという成功体験で生まれた信頼関係がベースにある。ただキーパーソンという人的資源にたよると、そこには継続性という課題がある。何かをきっかけにキーパーソンがいなくなることもある、そうすると急に動きがギクシャクしてくる。そうなっても、なんとか動くように手をつくすのがまちづくりプランナーとしての役割でもある。

そうはいっても、後任が地域課題に対して極端に消極的であったり、あまりにも杓子定規で現場の動きに竿を差すようであれば、まちづくりプランナーとしてはどうしようもない時もある。そればかりではなく、ちょっとした行き違いで地域にわだかまりができ、動かなくなってしまうこともある。そうなるとお手上げである。諦めて現場を放棄するのはいけないが、そこで無理にことを起こそうとするとかえって状況を悪くすることもある。心の中で「まあ、いいか」と呟き、しなければならないことを着実に行いながら「機が熟すのを待つことも必要」な場合がある。ただ、歯車がふたたび噛み合うチャンスと出会えたと思った時は、機を逃さず全力で行動に移さなければならない。